農村計画部門――研究懇談会

コロナ禍の農山漁村地域
――移住・定住・関係人口創出への影響と新たな可能性

［資料あり］

9月7日（火）9:00〜12:30　第3室

司会　斎尾直子（東京工業大学）
副司会　野田　満（東京都立大学）
記録　大庭知子（九州産業大学）

1. 主旨説明　上村真仁（筑紫女学園大学）
2. 主題解説
❶子宝日本一を生んだ地域力と関係人口（鹿児島県大島郡伊仙町）
松岡由紀（伊仙町）
❷竹富島憲章と竹富島のくらし（沖縄県八重山郡竹富町）
阿佐伊拓（竹富島を守る会）
❸コロナ禍だからこそ！グリーン・ツーリズム（岩手県遠野市）
――遠野超マイクロツーリズムをきっかけにして
田村隆雅（遠野 山・里・暮らしネットワーク）
3. 討論　コロナ禍による農山漁村地域の移住・定住・関係人口創出への影響と新たな可能性
司会：上村真仁（前掲）
コメンテーター：三橋伸夫（宇都宮大学名誉教授）・齋藤雪彦（千葉大学）・主題解説者３名
4. まとめ　神吉紀世子（京都大学）

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの暮らしにどのような影響を与えたのであろうか。人々が集まる機会の減少や県境を越える移動の制限は、地域経済の縮小をもたらし、都市農村交流や観光を軸とした地域づくりに取り組む農村へ直接的な影響を与えた。その一方で、在宅勤務およびテレワークの広がりから、都市部に住み、働く意味を捉え直し、生き方の再構築や災害リスク回避から田園回帰への関心が高まっている。

本研究懇談会では、これまでの都市中心の価値観を改めて見直し、農山漁村地域が本来持つ価値とこれからの可能性について考える場としたい。

❶長寿世界一や子宝日本一を生み出した地域力が注目される鹿児島県伊仙町での取り組み、❷急増する観光客と開発圧力の沈静化を機に、村づくりの基本に立ち返りコミュニティの結束を増す竹富島、❸地元向けのグリーン・ツーリズムの推進により次世代や移住者、地元住民の交流を促す岩手県遠野市の三地域からの主題解説をもとに、改めて顕在化した農山漁村の底力と、これからの移住・定住・関係人口創出の可能性について考える。

都市計画部門――研究協議会

価値転換によりこれからの都市及び都市生活のあり方を問う

［資料あり］

9月9日（木）14:00〜17:00　第3室

司会　村山顕人（東京大学）
副司会　小林剛士（山口大学）
記録　藤賀雅人（工学院大学）

1. 主旨説明　野澤　康（工学院大学）
2. 主題解説
❶住宅政策・住宅市場から俯瞰する都市の価値と課題
野澤千絵（明治大学）
❷密集市街地の現状と価値転換の可能性
川田浩史（UR 都市機構）
❸計画住宅地のこれからの価値と課題
室田昌子（東京都市大学）
❹農ある市街地の再評価とこれからの価値
寺田　徹（東京大学）
❺ソーシャル・キャピタルの観点から見たこれからの都市生活のあり方　三矢勝司（岡崎まち育てセンター・りた）
3. 討論
4. まとめ　佐久間康富（和歌山大学）

現代の日本においては、少子化・超高齢化や人口減少などの人口問題、それに伴う空き地・空き家の増加に見られる住宅・住宅地の需給バランスの変化、地震や豪雨、暑熱などの災害リスク、そしてさらにコロナ禍が加わり、これまでの都市及び都市生活のあり様は大きく変化せざるを得ない状況に置かれている。こうした状況にあって、私たちは、どこに、どのように住み、暮らしていくべきか（この論点は、2020 年度の大会研究協議会で議論する予定であった）という、極めて根本的な問いに向き合わざるを得なくなっている。

以上のように、とかくネガティブな状況ばかりで、将来の明るい展望を描くことが難しい時代である。しかし、こうした状況だからこそ、大きく価値の転換を図り、ピンチをチャンスに変えていくことが求められており、それが可能なのではないだろうか。楽観的すぎるという批判もあろうが、悲観してばかりいても、次の世代に胸を張って受け継ぐことのできる都市や都市生活のあり様に関するポジティブな発想は出てこないであろう。

そこで、この研究協議会では、物的環境としての都市とそこで営まれる都市生活、そしてさらには主に法制度としての都市計画の枠組みについて、5 人の主題解説者を招いて、それぞれ住宅政策・住宅市場、密集市街地、計画住宅地、農ある市街地、都市生活と地域コミュニティの視点から、豊富なご経験・ご研究の成果に基づく多角的な解説をしていただく。これらの主題解説を踏まえて、今後、大きく価値の転換を図り、よりポジティブな明るい未来を実現するための都市及び都市生活の可能性を議論していきたい。